

# 知的障害者キャンプに携わるスタッフのストレス要因に関する研究

長谷川 詠美 (生涯スポーツ学科、野外スポーツコース)

指導教員 黒澤 毅

キーワード：知的障害者キャンプ，スタッフ，ストレス，質的研究

## 1. 緒言

竹内ら<sup>2)</sup>は障害者キャンプは自然環境における体験，グループ体験等の実体験を提供し、小集団での活動や、そこから生じる課題に取り組みながら身体的、精神的、社会的な成長を支える有意義に必要な活動であると述べている。また、山根ら<sup>3)</sup>は発達障害児・者の親のストレスを明らかにすることは重要な課題であると述べている。そこで、本研究は知的障害者キャンプに携わるスタッフのストレス要因を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

【被験者】平成29年8月12日~22日(10泊11日)に実施されたNPO法人キャンピズの長期キャンプに参加したスタッフ14名(男子9名、女子5名)を対象とした。

【調査用紙】

- 1)フェイスシート：年齢、性別、キャンプ回数、キャンプ経験年数、キャンプ目的
- 2)睡眠時間調査：睡眠時間、睡眠時間帯
- 3)ストレス度数調査を行うため、鈴木<sup>1)</sup>が作成した心理的反応尺度(SRS-18)のうち3因子を用いてストレスに関する質問用紙を形成した。また、ストレスに関して自由記述を設けた。
- 4)インタビュー調査はInf.6名を抽出した。インタビューは30分~50分程度(1対1形式)の半構造化インタビューにより実施した。インタビューによって得られた発話内容はGTA(グラウンデッド・セオリー・アプローチ)に基づき、「各被検者における知的障害者を対象とした長期キャンプのストレス要因のプロセスモデル」を導き出し、「知的障害者キャンプに携わるスタッフのストレス変容モデル」の概念を作成した。

## 3. 結果と考察

6人のインタビュー調査結果より、『期待』・『不安』・『参加者の否定的な行動』・『スタッフのネガティブな感情』・『自信の損失』・『消極的』・『障害者の理解』・『実習に対する感情』・『積極的なコミュニケーション』・『参加者の安心』・『信頼関係の構築』・『自主性』・『挑戦』・『自信』・『自己の成長』・『継続意欲』という語りの特徴が見られた。概念図を図1に示した。

スタッフはキャンプ前、期待と不安を抱く。キャンプが始まると参加者の行動として、否定的な行動や感情を繰り返す起ることによって、スタッフはマイナスの感情を抱く。しかし、参加者把握につとめることで、期待を持ち続け、根気を持って対応する。そんな中で、スタッフの感情はネガティブになり、参加者とのコミュニケーションが消極的になることもあるが、参加者の特徴を把握し、理解することでストレスを軽減させていく。結果は、参加者が安心してつながり、参加者とスタッフの信頼関係が築かれることになった。知的障害者キャンプが終了した後、スタッフの達成感や自己の可能性を感じることができ継続意欲へとつながっていった。

引用・参考文献

- 1) 鈴木伸一、嶋田洋徳、三浦正江、片柳弘司、右馬埜力也、坂野雄二：新しい心理的ストレス反応尺度(SRS-18)の開発と信頼性・妥当性の検討，p22-29
- 2) 竹内靖子(2012)：大阪市とその近郊における障がいのある人のキャンプ実態に関する研究
- 3) 山根隆宏(2013)：発達障害児・者をもつ親のストレス尺度の作成と信頼性・妥当性の検討，p556-565

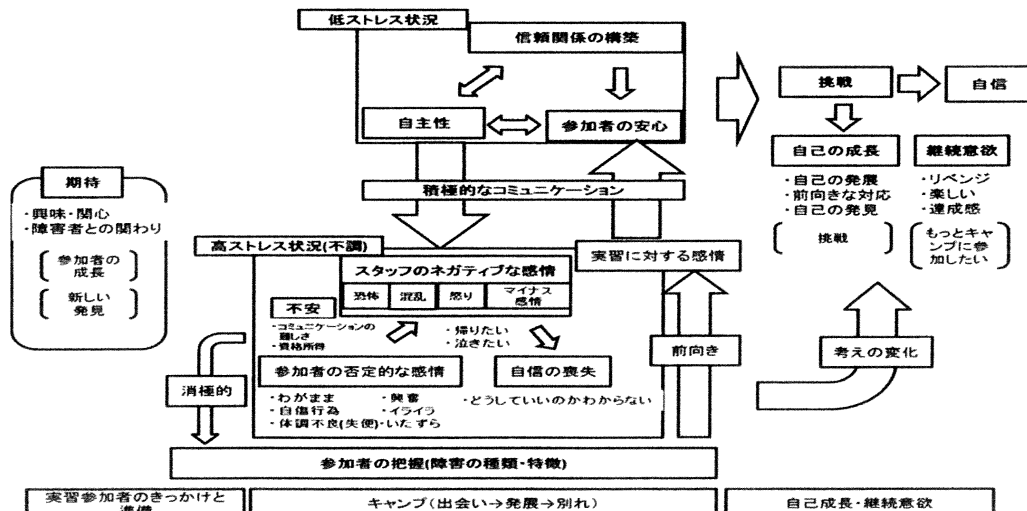


図1 知的障害者キャンプに携わるスタッフのストレス変容モデル